

平成 19 年度事業計画

(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

2007-05-29

1. まえがき

平成 16 年以降かつてない長期的なチタンの活況が継続しており、今年度もその傾向に変化はないものと見られる。

そのなかで、今年度は、チタン世界会議の日本開催を 6 月に控えた記念すべき年であり、また、日本主導によるチタンの国際標準化の推進、チタンの新しい製錬法を目指して進めている JTS 法の実用化など、国際的な場での活動を一段と飛躍させる重要な年度であると認識する。また、チタンの基盤技術の整備とデータベースの充実、さらに、新たな用途市場の開拓についても積極的な展開を図りたい。

2. 協会の活動

2.1 協会活動の基本方針

世界の技術や市場の動向を視野に入れながら、製造技術開発、新市場開拓、基盤整備など多角的で具体的な施策を積極的に実行する。

《 重点項目 》

- (1) チタン世界会議成功に向けての準備と支援
- (2) 需要の拡大と新しい市場の開拓
- (3) 外部機関との共同研究・共同開発
- (4) 次世代生産プロセスの実用化支援
- (5) チタンの国際標準化 (ISO 化) の推進
- (6) 積極的な国際交流の推進
- (7) チタンの啓蒙・普及活動の強化
- (8) 会員のためのチタン情報発信の充実
- (9) チタン産業戦略のフォローアップ

2.2 各委員会の活動計画

2.2.1 TKK

- (1) チタン世界会議の業界側窓口としての活動
- (2) 新規需要開拓に関する情報の調査、収集とテーマの選択、絞込み
- (3) 技術・開発関連方針の企画、立案、調整
- (4) 啓蒙・普及活動方針の審議
- (5) 産・学・官の交流の推進

2.2.2 開発会議 (小田議長)

- (1) 海淡・環境部会 (石外部会長)
 - ・ IDA、JDA とのコンタクトによる海淡技術動向とプラント案件の情報調査
 - ・ 環境・エネルギー分野でのチタン潜在需要発掘のための課題抽出
- (2) 船舶・建設・海洋部会 (阿部部会長)
 - 船舶 WG (木下主査 / 上瀧コソカト)
 - ・ (独)海上技術安全研究所との連携・支援と共同研究の実施
 - ・ PR 活動 (ポトショへの出展、(財)舟艇協会との共同活動、チタン適用造船メーカーへの協力・支援)

- ・船舶用チタン部材の適用状況調査
建設 WG (山本主査)
- ・鋼材倶楽部「海洋防食第 1 分科会」マニュアル作成の検討
- ・防火材料等関係団体協議会への参加
- (3) 医療・民生品部会 (神谷部会長 / 上瀧コンサルタント)
 - ・テクノエイド協会助成による福祉用具研究開発
 - ・アレルギーに関する情報収集
 - ・チタンの医療用途への適用研究供試材の支援
 - ・先端医療開発研究会、歯科材料学会等との交流
- (4) 賛助会員部会 (平嶋部会長/諸石・上瀧・山口・西村・添田各コンサルタント)
 - 全般
 - ・夏(7/12),冬 2 回の賛助会員総会・交流研修会の実施
 - ・賛助会員数：目標 190 社 (19 年連続会員増加)
 - ・海外との交流推進 (ITA 参加・講演・見学 等)
 - ・運営委員会による企画・運営
 - 地熱利用 WG (小澤隆久主査)
 - ・温泉関連情報収集、PR 活動の推進
 - 環境クリーン WG (千葉主査 / 上瀧コンサルタント)
 - ・他団体との交流、チタン PR 推進
 - 上下水道 WG (小澤隆治主査 / 長谷コンサルタント)
 - ・水道管地中埋没実地試験の開始
 - ・次亜塩素酸ソーダ貯槽用タンクの普及活動
 - ・管工機材展、オゾン協会展示会等への出展・PR
 - ファスナーWG (北主査 / 添田コンサルタント)
 - ・純チタン規格の見直し・改訂
 - ・Ti-6Al-4V 合金ねじ規格の PR(印刷・製本・PR)
 - ・展示会への出展
 - ・チタン製技術情報の収集 (チタン製造メーカー見学会の開催等)
 - 西日本支部 (小澤隆久支部長 / 西村、諸石、山口、上瀧コンサルタント)
 - ・西日本支部総会・講演会・交流会の開催
 - ・新年交流会の開催
 - ・チタン何でも相談コーナーの HP 上での継続推進：西村コンサルタント
 - ・WG 準備活動
 - ・運営委員会による企画・運営
 - 養成講座企画グループ(千葉主査 / 秋山顧問・諸石・西村・山口・上瀧コンサルタント)
 - ・養成講座の開催
 - ・テキスト改訂
 - 福祉医療 WG(小澤日出行主査/秋山顧問・諸石・西村・上瀧コンサルタント)
 - ・義肢装具調査研究の推進
 - ・動物用インプラント調査研究の推進
 - ・ペット用品研究会の開催
- 2.2.3 表彰審査委員会 (兼 野上委員長)
 - ・平成 19 年度協会表彰者の選考
- 2.2.4 ITF 委員会 (齋木委員長)
 - ・第 23 回 ITA 年次大会 (10/7-9 米国オランダ) での各国材料協会 Joint Meeting 参加
 - ・各国チタン協会との交流

2.2.5 業務委員会（堂野委員長）

- ・運営委員会事務局活動、総会・理事会審議事項の検討、協会事業計画立案・実績フォロー
- ・会員異動、協会統計結果に関する審査
- ・所管官庁との連携、輸出関連法規の遵守

2.2.6 展伸材委員会（堂野委員長）

- ・出荷統計をベースとした動向の把握
- ・統計整備と関税問題への対応

2.2.7 編集委員会（長田委員長 / 下條コンサルタント・鈴木編集顧問）

- ・基本方針「需要拡大に寄与する技術情報誌」継続
- ・「我が社のこだわりの技術」の連載継続
- ・「研究室紹介」の連載継続
- ・「チタンの利用技術シリーズ」の連載継続
- ・チタン建築物（モニュメントを含む）日本地図のシリーズ化検討

2.2.11 環境委員会（加古委員長）

- ・京都議定書発効に伴う対応
- ・チタン鉱石に関する廃棄物管理基準法制化の動きについての情報収集
- ・装置材料部材廃棄基準法制化の動きについての情報収集
- ・チタン業界の環境問題対応状況の公報・PR（環境リーフレット）
- ・関係省庁・関係団体の動きチェック
- ・事故、災害防止情報の交換

2.2.12 技術委員会（山本委員長）

(1) 総括課題

- ・チタン規格の充実、国際標準化推進
- ・チタン関連技術データベースの充実
- ・2007年チタン世界会議（日本金属学会）支援
- ・H19年度表彰候補者選考（技術賞・永年技術功労賞）
- ・第14回チタニウム講習会の開催
- ・第4回工業高校先生の見学会開催

(2) 材料分科会（小川 厚主査 / 山田・樫田コンサルタント）

- ・JIS規格改定作業、圧力容器規格への純チタン2種規格化
- ・ISO/TC79/SC11(チタン)規格案策定、各国調整
- ・純チタンファスナー規格の見直し支援

(3) 耐食性分科会（屋敷主査）

- ・チタン耐食性問題に関する課題への対応

(4) 非破壊検査分科会（杉 主査/山口コンサルタント）

- ・ISO/TC79/SC11非破壊規格案の作成(DIS作成)（チタン管 UT/ECT）
- ・放射線透過試験用透過度計の補充製作と販売計画

(5) 分析分科会（稲本主査）

- ・JIS分析方法通則、蛍光X線分析方法およびカップリング法改正3案件の成立
- ・JIS H 1618（けい素定量方法）の改正に向けての方法調査・共同実験立案への審議
- ・JIS 酸素標準試料の更新への調査、実験
- ・ISO/TC79/SC11(チタン)鉄、酸素分析方法 DIS 化コメントへの対応、炭素分析方法のCD化

(6) 溶接分科会(小川和博主査/上瀧・近藤・長谷コンサルタント,小見山溶接協会コンサルタント,小溝溶接分科会)

顧問)

- ・チタン溶接技術の普及・向上（溶接研修会等の検討）
- ・日本溶接協会との連携、AWS（米国溶接協会）D1.9, G2D, A5K への参加
- ・(独)産業技術総合研究所「ものづくり先端技術研究センター」との協力
- ・知的基盤整備の計画への参画
- ・JIS 改訂,ISO との整合化への協力

(7) 規格調整幹事会（長島主幹）

- ・春期、秋期 ASTM 委員会への出席
- ・ISO/TC79/SC11（チタン）およびその国内対策委員会への対応

(8) 製造技術研究会（兼 山本主幹）

- ・スポット、溶解、圧延の各 WG における課題の調査研究

2.2.1.3 新製錬委員会（委員長：市橋委員長）

- ・チタンプロセス外の進捗状況の確認
- ・内外の新製錬法関連の情報交換

2.2.1.4 ISO/TC79/SC11 国内対策委員会（鈴木委員長 = 工学院大学/秋山顧問・山田コソカ
タト）

- ・2007 年通算第 7 回国際会議（6 月京都）開催に向けた幹事国業務
- ・TC79 国際会議（仏）出席
- ・国際規格の提案（継続案件 7 件、新規案件 3 件）
- ・チタン最初の ISO 制定

2.3 協会支援者の活動環境整備

- (1) アドバイザー・コンサルタント規定の効果的運用
- (2) 関連学会チタン研究者との積極的な交流と支援依頼